

営農だより 野菜版 7号

JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
2026年（令和8年）8月5日発行

JAふじ伊豆御殿場地区本部「野菜づくり運動」野菜苗配布のお知らせ

本年度も、御殿場地区管内の正組合員宅にJAふじ伊豆御殿場地区職員が栽培した野菜苗（キャベツ苗4本、ブロッコリー苗4本）を配布いたします。苗と一緒に栽培の手引きを配布しますので参考にしてください！

・播種日：令和8年7月21日 ・配布時期：令和8年8月中旬～

キャベツ 品種：新藍（サカタのタネ）

《特徴》～耐病性に優れ、甘くてジューシーなおいしいキャベツ～

- ・耐病性に優れ、萎黄病に抵抗性、黒腐病と根こぶ病に耐病性がある。
- ・高温期でも腐りや裂球が遅いため大玉での収穫が可能。
- ・生食用から加工用まで幅広い用途に使える。瑞々しくて甘みが強く、食味が優れている。肥大力にも優れ、偏平球で歩留まりも良く、加工・業務用に最適である。

ブロッコリー 品種：ハイツSP（タキイ種苗）

《特徴》～耐暑性に優れ、色・形・しまりの良いブロッコリー～

- ・栽培適応性が広く耐暑・耐寒性に優れ秋でも春でも栽培しやすい。強勢で栽培が比較的容易なため、全国の農家で栽培されている。
- ・定植後は約65日で収穫できる中早生種。花蕾はしまりが良く、適期栽培では、直径16cm、重さ450g程度の良質頂花蕾となる。
- ・花蕾の収穫後、側枝花蕾（わき芽）も収穫し食べられる多収種。

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！

レタスの栽培

1. 特 徴

冷涼な気候を好み、春と秋の気温が生育に適しています。アブラナ科のキャベツなどと比べると、害虫がつきにくく育てやすい野菜です。ただし、高温下では発芽不良やとう立ちの原因となるので、品種に応じた播種時期を守りましょう。

- ①発芽適温：15～20℃（4℃以下30℃以上では殆ど発芽しません。）
- ②生育適温：18～23℃（30℃以上では生育が阻害される。）
- ③結球適温：20℃前後（25℃以上で球の肥大が抑制されてしまう。）

2. 播種・育苗

ポット育苗：ポットに3～4粒ずつ種をまき、覆土は薄く種子が見えるか見えないか程度にします。本葉が2枚の頃間引きして1本立ちにします。本葉が4～5枚の若苗定植でスムーズに活着させ、初期生育を促します。

セルトレイ育苗：128穴のトレイを使い種を1粒ずつまき、覆土は薄く種子が見えるか見えないか程度にします。トレイ育苗は育苗日数20～25日程度で、本葉が2～3枚で定植します。

《栽培のポイント》

- ①レタスは光発芽性種子（光の照射が発芽の条件となる種）なので、覆土を薄めにすると発芽率があがります。
- ②夕方に播種し、トレイを台等に載せ風通しを良くする。
- ③根は浅根性で表層に細根が分布するので乾燥には非常に弱く、生育不良となる。⇒こまめな灌水が大切です！！
- ④発芽までは乾燥防止のため寒冷遮等で被覆する。発芽後は徒長防止のため30～40%の発芽が見られたら、速やかに被覆資材を取り除く。

余分な水分を排出させるため地面から30cm以上空ける。

3. 施 肥（土作り）

完熟堆肥を施用し、深耕を行う。施肥は元肥一発で全層施用として下さい。また、排水対策として、水はけのよい圃場を選びましょう！

《注意》過湿状態が続くと腐敗性の病害が発生しやすくなります。排水路の設置、深耕や有機物を利用した土作りにより排水対策をして下さい。

【施肥例】（1a当り）

	資材名	施肥量	備 考
堆肥	牛ふん堆肥	200kg	定植の1ヶ月前に施用
土壌改良材	苦土石灰（粒）	10kg	定植の1週間前に施用
	硫マグ（粒）	4kg	
元肥	ジシアン有機s806	25kg	

4. 定 植

レタスの根は浅根性で80%以上の根が深さ30cm内にあるため、水分や肥料に反応しやすく急激な栽培環境の変化には注意が必要です。湿害に弱いので、排水が悪い所では高うねにしてください。防寒対策として平均気温が10℃以下になる頃（11月中旬）にトンネル被覆（ビニール等）を行って下さい。

ハクサイの栽培

1. 特 徴

比較的冷涼な気候を好む秋まき野菜の代表格です。ポイントは播種と定植の適期を守ることです。目安は8月中旬、遅くとも8月末迄には播種を行って下さい。播種が早すぎると病害虫が発生しやすく、遅すぎると結球しないことがあるので注意が必要です。

①発芽適温：20～25℃(4～35℃でも発芽可能。適温で播種後3～5日で発芽。)

②生育適温：15～20℃(外葉の生育期には、30℃以上の高温にも耐える。)

③結球適温：15～16℃(4℃以下で結球は停止。23℃以上では軟腐病が多発する。)

2. 播種・育苗

ポット育苗：ポットに3～4粒ずつ種をまき、軽く覆土をして、たっぷりと水をやりま
す。双葉が開いたら2～3本に間引き、本葉2枚の頃に1本立ちにします。本葉が4～
5枚の苗で定植する。

セルトレイ育苗：128穴のセルトレイに培土を十分詰めた後、十分灌水をする。3～
5mmの深さに播種を行い、覆土を行った後に軽く灌水を行う。トレイ育苗は育苗日数1
5～20日程度で、本葉3～4枚で定植する。

- ①トレイは風通しを良くするため、地面に直接置かないでベンチなどの上に置く、または
棒などをはさみトレイの下に空間を作る。
- ②灌水はできるだけ午前中に行い、日暮れの頃にはややトレイが乾く程度にする。
- ③育苗期間の後半(播種後10日～2週間目以降)はできるだけ屋外で育苗し、風や夜露
にあてて苗をしめる。

※トレイの土は乾きやすいので、夏場は毎日灌水が必要になります。
特にトレイの縁は乾きやすいので注意が必要です。

3. 施 肥 (土作り)

ハクサイの根は細いですが広く分布するので耕土が深く、排水性、通気性、保水性に
優れた土壌を用意します。酸性土だと『根こぶ病』が発生しやすくなるので、土壌の酸
度調整(pH6.0～6.5が好適)はしっかりと行いましょう。また、ハクサイは連作を
すると『根こぶ病』、『黄化病』などの土壌病害が発生しやすくなります。連作障害を避
けるために、同じ場所での栽培間隔を2～3年あけるようにして下さい。

【施肥例】 (1a当り)

	資材名	施肥量	備 考
堆肥	牛ふん堆肥	200kg	定植の1ヶ月前に施用
土壌改良材	苦土石灰	10kg	
元肥	粒状ようりん	8kg	定植の1週間前に施用
	新FTE 燐硝安加里s280	14kg	
追肥	NK化成16-0-16	4kg	

4. 定 植

晴天でなるべく風の無い日に行いましょう。定植前にポットごと水につけて吸水させ
ておくか、定植後たっぷりと水をやります。また、育てる品種によって畝幅、株間を調
節するようにしましょう。

品 種	畝幅(cm)	株間(cm)
早 生	60	35～40
中 生	60	40～45
中生～晩生	70	45～50

5. 追 肥

追肥は苗の活着をみたら早めに行うようにします。結球開始前までに終えないと球の
肥大が遅れる可能性があるため、注意が必要です。

品 種	追 肥 時 期
早 生	1回目：定植後2週間後に中耕を兼ねて行う。
中 生	1回目：定植後2週間後に中耕を兼ねて行う。 2回目：結球始期(芯葉が立ち上がる頃)に行う。
中生～晩生	1回目：定植後2週間後に中耕を兼ねて行う。 2回目：結球始期(芯葉が立ち上がる頃)に行う。 3回目：結球中期(播種後50～60日後)に行う。

※1回目の追肥は定植から2週間後に、株のまわりに施し、除草を兼ねて中耕する。
※2回目の追肥は1回目の追肥から10日～2週間後の葉が立ち上がり始めた頃に行
う。この頃には畝全体が葉で覆われているため、葉を傷つけないように注意しながら、
畝の肩に施す。晩生の場合、3回目も2回目と同様に行う。

6. 根こぶ病対策

①定植前に根こぶ病の薬剤を土壌に混和する。 (1a当り)

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
ネビリュウ	2～3kg	播種又は定植前	1回	全面土壌混和

②高畝栽培にして排水を図り、多湿条件になるのを避ける。

③石灰や石灰窒素を施用し、pHを矯正する。

※石灰窒素については、施用後7～10日は播種・定植をしないようにする。

④アブラナ科の連作を避ける。輪作体系のひとつとして、ダイコンなどを導入。

7. 生理障害

ハクサイの生理障害には、全体の生育が衰え下位葉から枯死するリン欠乏や、葉が褐
変する縁腐れ、芯腐れ病状を示す石灰欠乏症(カルシウム欠乏症)、成長点部や葉柄部が
褐変するホウ素欠乏症があります。生理障害が出にくい品種であっても、生育のバラン
スが乱れると一時的に発生する場合があります。またチッソやカリの多用、酸性土壌、
過乾湿によって根が傷んだ場合も発生します。